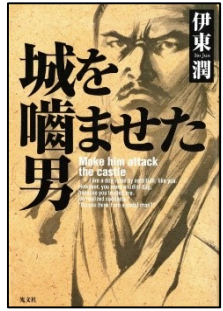


# 海

夏といえば海！ ということで、海に関わるいろいろなテーマの本をご紹介します。さすが、海って懐が深いですね～。

※こちらで紹介した資料は今号配布期間中「ぶらっつ☆篠崎コーナー」に展示しています。



## 『鯨のくる城』 （『城を噛ませた男』所収）

伊東 潤著  
光文社  
Fイ  
篠崎ほか所蔵

時は戦国時代。北条領の伊豆・雲見の海には鯨がよく現れ、領主の高橋丹波守は鯨捕りの親方と馬鹿にされていた。秀吉の小田原征伐が始まり、伊豆にも秀吉の水軍が大挙し、窮地に追い込まれる。その時、丹波がとった策とは——。私も丹波のようなやる時はやる男になりたいと思いました。



## 『海のミュージアム』

ルイス・ブラックウェル著  
創元社  
452フ  
篠崎ほか所蔵

「この惑星を地球と呼ぶのはどんなにおかしなことか。“地球”であることは明らかなのに。アーサー・C・クラーク」海にまつわる名言とエッセイに、美しい写真が添えられた1冊。海の様々な表情をとらえた写真は驚きと美しさにあふれている。



## 『コロンブレ』 （『神を見た犬』所収）

ブツァーティ著  
関口 英子訳  
B973フ  
光文社古典新訳文庫  
篠崎ほか所蔵

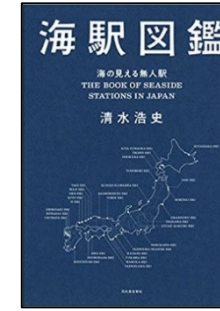
餌食と定められた者とその血縁にしか姿が見えない謎の魚コロンブレ。幼い時にその姿を見てしまった船乗りの男は常にその影におびえ、逃げ続けていたが……。人生の最後に男がとった行動は、彼に衝撃の事実を突きつける。



## 『海藻の疑問50』

日本藻類学会編  
成山堂書店  
474カ  
篠崎ほか所蔵

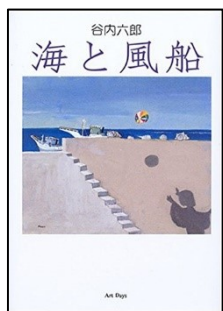
海苔、昆布、わかめ、ひじきなどの食品でもおなじみの海藻。でも、そもそも海藻ってどんな生きものなの？ 昆布のだしはなぜ海中で溶け出さないの？ 意外と知らない数々の疑問に専門家が分かりやすく回答するQ&A集。これを読めば海藻博士になれるかも！？



## 『海駅図鑑』

清水 浩史著  
河出書房新社  
686シ  
篠崎ほか所蔵

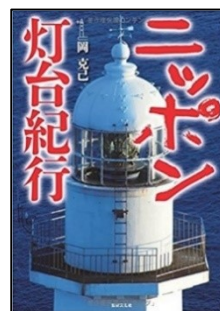
海沿いにある名も知らぬ無人駅。そこにはひとつひとつ物語がある。そこで暮らす人々の姿、かつてその周辺であった出来事。どこかで見たことのある風景——そんな情緒あふれる、けれども普段は通り過ぎてしまいそうな場所に出かけたくなる一冊。



## 『海と風船』

谷内 六郎絵と文  
アートデイズ  
726タ  
篠崎ほか所蔵

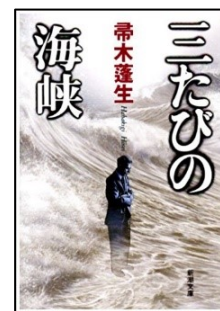
創刊号から亡くなる1981年まで「週刊新潮」の表紙絵を担当した、谷内六郎氏による絵本。海が見える風景と、紙風船の描かれた絵に詩が添えられています。遠くの誰かの笑い声、畳や草木の匂い、気持ちのいい風……。まるで本の中の世界を間近で覗いているかのように、絵に描かれていないものまで感じられます。



## 『ニッポン灯台紀行』

岡 克己著  
世界文化社  
557オ  
篠崎ほか所蔵

灯台ときくと、海外の風景写真などを想像しがちですね。実は日本にも、多くの美しい灯台があります。本書では日本列島の北から南まで、128基の灯台をカラー写真とともに紹介。日本の沿岸をぐるっと一周してみたくなる一冊です。



## 『三たびの海峡』

帚木 蓬生著  
新潮文庫  
BFハ  
篠崎ほか所蔵

朝鮮人の河時根は三度その海峡を渡った。最初は戦時下の強制連行。次に、愛する人と祖国に帰るため。そして半世紀が過ぎ、目を逸らしていた辛い過去と向き合うため、再び渡らなければならなかった。戦時下の炭鉱を精密に調査し日韓史の深部まで丁寧に描くこの作品が、そう遠くない過去に何があったのかを知るきっかけになればと思います。



## 『海賊キャプテン・ドレーク』

杉浦 昭典著  
講談社  
B289ト  
篠崎ほか所蔵

地球の全貌が明らかでなかった16世紀、海上は無法地帯だった。奴隷貿易と植民地への襲撃で成り上がった、海賊キャプテン・ドレーク。マゼランに次ぐ史上2人目の世界周航者となり、イギリス海軍総督としてスペイン無敵艦隊を撃退するまでになる。富と名声、冒険を求めて船に乗った男たちの物語。



## 『寿司ネタの通になる』

野村 祐三著  
祥伝社  
596.2ノ/アオ  
篠崎ほか所蔵

マグロ、サーモン、ウニ、いくら……。皆さんはどの寿司ネタが好きですか。本書には寿司ネタとなる約60種類の海産物の味や食べ方はもちろん、その特徴や産地、漁法、旬が紹介されています。本書を読んで寿司屋に行き、うんちくを語ってみませんか。